

令和5年度 第2回 野々市市子ども・子育て会議
会議録（要旨）

日 時：令和6年3月18日（月）
午後7時～
場 所：市役所2階201会議室

1 出席委員 全体会議 16人（欠席2人）

2 配布資料

- 資料1
 - 1 令和5・6年度保育園・こども園・幼稚園定員
 - 2 令和5年度市内保育園・認定こども園・幼稚園 利用児童数
- 資料2
 - 1 令和6年度 放課後児童クラブの利用者見込
 - 2 富陽校下学童保育所こうさぎクラブ移転候補地について
- 資料3 児童虐待等の状況について
- 資料4 あすなろ保育園閉園について
- 資料5 野々市市こども計画策定について
- 資料6
 - 1 こども誰でも通園制度
 - 2 一時預かり事業との関係
 - 3 子育て関連施策に関する制度改正等について

3 会議録

◎ 全体会議

1 開会

会議の成立を報告

2 部長挨拶

健康福祉部長挨拶

3 議事

（1）野々市市内保育園等の入園申請の状況及び定員について

説明【事務局】 資料1に基づき説明

《質疑なし》

4 報告事項

1. 放課後児童クラブについて

説明【事務局】 資料2に基づき説明

【委員】

資料では、第2、第3アクティ8、カメラクラブの2クラブとたちのクラブの3クラブ、それぞれ利用児童数が40名を超えています。

同じ館野校区でも、コスモ・キッズたちは33名と、差があるように見えます。確か基準は概ね40名を超えない程度だったかと思いますが、このあたりはどうなっていますか。

説明【事務局】

概ね40人という基準と、もう一つ利用児童の面積1人当たり1.65㎡という基準がありますので、その2つの基準を考慮しながら、利用児童数を決めています。

【委員】

運営自体に大きな支障はないということかと思いますが、指導員の確保が難しい状況にあるとお聞きしており、市としても募集をかけているようですが、保育士も不足している中で、指導員を確保する工夫を教えてください。

説明【事務局】

放課後児童クラブの指導員人材不足は、様々なクラブから聞こえています。

指導員の募集方法について、今まではハローワークやフリーペーパーなどで募集をしていましたが、今年度からは、更に野々市市のホームページに求人を載せて、いろんなところで学童で働きたいと思う人が情報をキャッチできるような方法をとっています。

また、放課後児童クラブの指導員になぜなりたくないのか、人が集まらないのか、というところを、様々な人に聞きながら、イメージアップにつとめ、さらに大学や短期短大と連携をしながら、働きたいと思う人を増やしていきたいと考えているところです。

2. 児童虐待の状況について

説明【事務局】 資料3に基づき説明

《質疑なし》

3. あすなろ保育園閉園について

説明【事務局】 資料4に基づき説明

《質疑なし》

4. 富奥保育園大規模改修について

説明【事務局】 富奥保育園大規模改修について説明

《質疑なし》

5. 第3期子ども・子育て支援事業計画及び第1期こども計画策定について
説明【事務局】 資料5に基づき説明

《質疑なし》

6. 子育て関連施策に関する制度改正等について
説明【事務局】 資料6に基づき説明

【委員】

こども誰でも通園制度について、野々市市は実績がないとのことなので、例えば七尾市あたりは国のモデル事業として行っていますので、先進地ではどのような成果を上げて、どのような問題点を抱えているのか、調査をしてみてもよいかと思います。

保育所等の職員配置基準の改善については、保育の現場が少しずつでも、余裕とまでいきませんが、こどもたちに向き合っていく時間が多くなってくることを本当に願っています。ノンコンタクトタイムの導入については、現在、野々市市において、ノンコンタクトタイムを活用して成果を上げている園があればお聞きしたい。

説明【事務局】

現在、公立ではまだ取り入れてはならず、来年度1園で試行しようと思っています。法人については、竹下委員、お願いします。

【ふじひら保育園園長竹下委員】

ふじひら保育園では、各クラスが複数担任になっていますので、こどもたちのお昼寝中に、ひとり大体40分間程度、少しこどもと離れて、事務所で便りを書いたり、こどもたちとの会話をお互いに話し合ったりしています。ただ、行事の前などの繁忙期には、なかなか時間が取れず、看護師や主任が交代して、少しでもこどもと離れる時間作った方がいいよと言ってはいるのですが、なかなか時間が取れにくいこともあります。

園としては、こどもと離れることでいろんな会話も増えて、先生たちの気持ちも穏やかになって、いろんな視点で子供たちのことを見られたりするので、できるだけ取るように促していますが、毎日取れるかというとまだ難しい現状です。

そこには保育士不足の問題もありますが、努力はしているところです。

【委員】

法人で実施しているところ何園ぐらいありますか。

【ふじひら保育園園長竹下委員】

他園はわかりませんが、同じ法人のあわだこども園も同じ体制でしています。

【委員】

竹下委員にご報告にいただいたように、こどもたちのことを語り合う時間として、ノンコンタクトタイムを利用するのは賛成です。

また、保護者と対話する時間の確保ということ、うまくいけば、とても成果が上がることでないだろうかと思えます。

保育士同士の会話はまず、廊下のすれ違いざまにでも、お互いの様子を軽く語り合いをすること。もう1つは毎日最低15分、集まれる人たちが集まって、こどもたちの今日の様子や明日どうするか、など、15分会話をノンコンタクトタイムの中に組み込めることができればと思います。また、先ほどお昼寝の時間に40分程度こどもから離れる時間を作ると言われていましたが、40分あれば、1つの事例のカンファレンスができます。保育カンファレンスを何とか都合をつけて、月に何回か行い、先生方の連携を深めていくわけです。

ノンコンタクトタイムの一番大事なことは、やはり先生方が余裕を持ち、対話の時間を持ち、繋がりを深めていくということではないだろうか、と私は思うんです。

ぜひ今後、野々市でこのノンコンタクトタイムを入れるにあたっては、15分会話といったものを中核にして、保育士が繋がっていくことを主眼にしていけたらいいと思いますのでご検討ください。

【押野保育園園長笹嶋委員】

先ほど公立園ではまだ行っていないとお伝えしましたが、押野保育園で試行的に行っていますので実施状況についてお伝えします。

今年度に入ってから、主任や運営補助の方に、お昼寝の時間をお手伝いしてもらったりしながら、書類作成の時間をとってみっていますが、なかなか時間が取れず、話し合いも難しかったりするので、お昼の時間を使って、クラスのリーダー等が集まって園内研修を行ったり、行事について話し合ったりしました。

話し合いを密にしていくことで、夕方に残って会議をする時間が多少減ったり、保育の行事の準備が減ったということが、効果として挙げられると思います。

保育士同士のケース事例検討をすることにより、特に若い保育士にとってはすごく励みになったり、アドバイスをもらうことで、自信に繋がったりというところは見られると思います。

ただし、どうしても時間の確保というのが現実的には難しいので、今後どうやっていけばいいのか、工夫しながら進めていきたいと思っています。

7. 令和6年能登半島地震避難児童の受け入れ状況について

説明【事務局】 令和6年能登半島地震避難児童の受け入れ状況について説明

令和6年能登半島地震の避難児童の受け入れ状況について、保育園・認定こども園でも、調整中のお子さん方も含めて、3月現在、38名を受け入れています。

今後4月以降も引き続き受け入れを行っていく予定であります。

小中学校については、大塚委員にお願いします。

【教育総務課担当課長大塚委員】

令和6年能登半島地震の避難児童の受け入れ状況について、小・中学校合わせて、3月時

点では 33 名の児童生徒を受け入れております。

4 月からは 50 名程度となります。

これは、保護者が、まだ迷っている方、ちょっと戻りたいなあと思っている方、仮設住宅ができたなら帰りたいと思っている方のこどもも含んでいますので、ここから増減するかと思います。

各学校の管理職や担任も、児童生徒に寄り添った対応をしており、子どもたちは落ち着いた学校生活を送っているように見られます。

授業でもしっかり学びに向かって、大きな声で発言している姿や、休み時間に友達と遊んでいる姿も見えます。

子どもの持つ未来に向かっていく力強い力を感じるのですが、その一方で、心も全部そうとは限りません。特に、周囲の様子がわかってくる小学校高学年、中学年の子どもは、辛いと言えない、周りにもっと辛い人がいる中で、辛い思いを隠してしまう。その子にとってはそれが思いやりだったり、自分を守ることだったりだと思うのですが、そういう子どもたちもたくさんいると思われます。

元気そうだから大丈夫ではなく、つらい思いを抱えていないか、ということを含めて、学校では複数の目で見守っている状況です。

7 その他

【和泉委員】

こども基本法ができたのは日本では初めてのことで、こども大綱も整備され、そんな中で何を目指すかということ、子どもがその権利主体として生きるということを大事にしていくことなのです。

国全体で意識転換を行い、今度の策定に向かわなくてはならない。これまで第 1 期第 2 期の計画では、量の見込みとか確保とかに軸足を置きすぎている。これからは保育なり教育なりの質を考えていくことになろうかと思います。

また、こどもの意見表明も大事にする必要があり、市民の意向調査だけではなく、子どもの意見表明にも視点を定めていかなければならないと思います。

今ここで、日本全体で子どもというものの存在を掴んでいく大事な時期を迎え、保育園の先生方や学童の先生方に集まっていただいて、現状どうなっているのかというワークショップ等も行うことも含め、ニーズ調査をするということにしなければならぬと思います。私もできる限り協力をして参りたいと思いますし、委員の皆様にも協力いただけると幸いですのでよろしくお願いいたします。

8 閉会